

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年6月1日現在

機関番号：34516

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22531041

研究課題名（和文） 養護実践力の向上を目指したケースメソッド教育プログラムの開発と評価

研究課題名（英文） Development and Evaluation of a Training Program Using the Case Method Instruction to Improve the Practical Abilities for Yogo Teachers

研究代表者

林 照子（HAYASHI TERUKO）

園田学園女子大学・健康科学部・准教授

研究者番号：30434921

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、養護教諭の実践力の向上をめざしたケースメソッド教育プログラムを開発し評価することである。方法は、他の専門分野におけるケースメソッド教育プログラムと研究者間相互観察による研修運営方法の検討により研究課題の探索を行うこと、また、現職養護教諭から養護実践力に必要な課題を抽出し、さらに養護教諭に対するケースメソッド教育を用いた継続研修の実施からそのプログラム評価を行った。結果、ケースメソッド教育の講師には、他の専門分野で実施されているケースメソッド教授法の見学、実際の研修観察記録、研究者間相互評価を含むモニタリングの重要性が示唆された。また、本プログラムは、研修参加者の養護実践キャリアの違いを活かした研修運営方法と討論の仕組みづくりを行うことで養護実践に役立つと評価を得た。

研究成果の概要（英文）： The purpose of this research is to develop and evaluate a Yogo Teacher's training program by the case method instruction which aimed to improve the practical abilities. That is to identify issues necessary to practical skills for Yogo Teachers, and to evaluate the program from the implementation of ongoing training using a case method instruction. Results, that was necessary for the instructor to handle on the training class, 1) to learn from the case method instruction of other disciplines, 2) to monitor including researchers between mutual evaluation and observation of training, were suggested. In addition, this program got a helpful and useful for the practice skills of Yogo Teachers by making creating structure of discussion and training management that take advantage of the difference in the practice career of participants.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2011年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2012年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：カリキュラム構成・開発

1. 研究開始当初の背景

(1) 教育分野におけるケースメソッド教育

「ケースメソッド教育」とは、判断や対処を求められるケース（事例）を教材とし、参加

者がディスカッション（討論）を行いながら判断力や問題解決力を磨くことを目的として開発された教育方法である。

現在、ケースメソッド教育を活用している領域は、法律学や経営学にとどまらず、臨床医学や公衆衛生学、国際保健学、看護学など多岐にわたっており、その成果が報告されている。しかしながら、研究開始当初、教員に対するケースメソッド教育は、我が国では、丸山恭司・坂越正樹・曾余田浩史（「教職倫理をケースメソッドで教える」日本教育学会大会発表要旨収録，64，130-131，2005）、安藤輝次（『学校ケースメソッドで参加・体験型の教員研修』図書文化，2009）、そして、竹鼻・岡田の研究を除いて多くは行われていないのが実情であった。

(2) 養護教諭の実践力向上における課題

平成20年1月中央教育審議会答申「子どもの心身の健康を守り、安全・安心を確保するために学校全体としての取組を進めるための方策について」において、養護教諭は学校保健活動の中核的役割を果たしており、子どもの現代的な健康課題の解決に向けて、重要な責務を担っていると示された。その背景にある今日的な教育上の課題は、いじめ、虐待、自殺、感染症など多岐にわたり、緊急な対応が求められる場合が多く、また、子どもの発育・発達課題、学校や家庭などの複雑な要素が絡み合っている。

過去の経験や実務経験年数があっても、変化の激しい昨今の子どもの姿に対応しきれず、試行錯誤しながら対応にあたることも珍しくない。また、実務経験の少ない教員であっても複雑な子どもの状況に対応しなくてはならず、苦戦を強いられることも多い。そのために、個人の能力だけではなく、多様な問題解決への対応力と組織人としての判断力の育成をはかることも必要となる。

以上(1)(2)から、総合的な専門の実践力を高めること、「養護実践力」の向上を目指した教員養成ならびに現職養護教諭を対象とした教育研修の開発が求められる。

ケースメソッド教育は上記(1)に記したようにその成果が示されているものの、研究開始当初、多くは実施されていなかった。

2. 研究の目的

本研究では、子どもの健康課題に対応するための実践力の向上を目指し、養護教諭に対するケースメソッド教育プログラムを開発し評価することを目的とする。具体的には、ケースメソッド教育を実施するうえでの困難要因の検討から、養護教諭の多様な研修ニ

ーズに適したケース教材を検討すること、さらに、ケースメソッド教育研修プログラムを提案することを目的とする。

3. 研究の方法

本研究は、以下の方法により行った。

(1) ケースメソッド教育の先駆的教育プログラムの視察と研究者間相互観察による授業運営方法の検討により養護教諭独自の研修課題の探索

(2) 現職養護教諭から養護実践力に必要な課題を抽出し、養護教諭に対するケースメソッド教育モデルとなる研修の継続的实施とその評価

(2)に関しては、近畿圏現職養護教諭を中心として研究者が講師として企画した「ケースメソッド学習会」に登録した、指導的立場の養護教諭（以下、熟練養護教諭）6名、実務経験10年未満の養護助教諭・養護教諭の40名に対し、継続研修を実施した。1年3回、2年継続実施を行った。

研修は、毎回、参加者の同意を書面で得て記録すること、参加者による事後評価（質問紙調査）、熟練養護教諭には、研修過程の観察記録および事後グループインタビュー調査を行った。最終年度にはプログラム全体に関する評価を依頼した。

ケースメソッド専門家にコース全体の評価を依頼した。

学校組織内外の連携に関する新たなケース教材の開発、さらに、キャリア間相互討論観察を行う「2段階討論形式」による研修運営を実施しこれを評価した。

4. 研究成果

(1) ケースメソッド教育の先駆的教育プログラムの視察と研究者間相互授業観察による効果

ケースメソッド教育において重要な役割を果たす講師（チューター）の養成に必要な要素に関する基礎資料を得ることができる。

①他の専門分野であっても、系統的に行っているケースメソッド教授法の研修に参加することにより、養護教諭を対象とした研修講師（チューター）に必要な技術を習得することができる。また、他の専門分野で行っているケースメソッド教授法の指導者から、研修講師自身の個性や討論をリードする課題についてのフィードバックを受けることができる。

②研究者間相互観察の重要性

既存のケース教材を使用し、現職養護教諭を中心とした研究者間の養護教育の相互評価を実施することで、初めてケースメソッド教育研修を運営する講師の困難要因を抽出することができる。

具体的には、教育目的を達成するための討論過程において、研修講師（チューター）の発話内容および発問に関わる思考の特徴が認められる。特に、「議論のコントロール」、「議論の積み上げ」、「議論の深化」という討論の展開過程にかかわっていた。

以上①②から、ケースメソッド教育を運営する講師の養成のためには、すでに実績のある分野の教授法からの学習と、実際の実践の記録および観察者間の相互評価による振り返り（モニタリング）は、重要であるといえる。

以上の内容に関しては、国内外の学会で発表を行った。

③養護教諭を研修対象とした7ケース教材・教授用マニュアルの再加筆・再修正を行った。

(2)「養護実践力」を教育目的としたケースメソッド教育研修プログラムとその評価

本プログラムは、養護実践力の課題を抽出するために、研修対象者を、養護実践のキャリアが10年未満の協力者（以下、初任者とする。）と30年前後のキャリア（以下、熟練者とする。）の協力者を対象とした。

養護実践を教育目的として新たなケース教材を開発した。

プログラムの構成は以下のとおりである。

①第一期 ケースメソッド教育導入期

＜熟練養護教諭と研修講師の打ち合わせ＞

地域の指導的立場・初任者研修を担当している現職養護教諭が捉える養護実践の課題から教育目的の抽出

＜研修当日＞

ケースメソッド教育講師による研修

- ・ケースメソッド教育の概要説明
- ・ケースメソッド討論
- ・講師によるケース題材のまとめ

複数の熟練養護教諭による研修観察（モニタリング）

事後評価

②第二期 継続研修期

＜熟練養護教諭のケースライティング＞

養護実践力をキーワードにした教育目的のケース教材の作成と研修講師によるケースライティング指導

＜研修当日＞

ケースメソッド教育講師による研修

- ・初任者討論（ケースライターは自作ケースの観察記録）
- ・熟練養護教諭による討論
- ・講師によるケースの題材に関するまとめ
- ・全体シェアリング

複数の熟練養護教諭による研修観察（モニタリング）

事後評価

＜研修終了後＞

ケースライターとその他の熟練養護教諭による事後検討

ケースメソッド講師の討論運営に関するフィードバック

③養護実践キャリアの違いを活かした相互学習の仕組みづくりの重要性

同地域の熟練養護教諭と経験10年未満の養護教諭との混合グループでは「議論の展開」が困難であった。同質キャリア集団でのケース討論では養護実践に対する「議論の深化」に課題が残った。

そこで、他の専門分野のケースメソッド指導者セミナーにて情報収集を行い、「2段討論形式」を取り入れることとした。

「2段討論形式」とは、本研修プログラムの場合、初任者の討論が終了したのち、熟練養護教諭の討論を実施する。つまり、同質キャリア間討論による討論を相互観察する討論方法である。

その結果、討論の深化だけではなく、熟練養護教諭もつ養護実践に関する知識や実務に関する具体的情報について参加者全体でシェアリング（共有化）することができる。

討論過程に対する熟練養護教諭によるフィードバックと養護実践に関する発言は、初任者養護教諭だけではなく、研修講師も含めた相互学習の機会となる。

④研修と本プログラムに関する評価

・参加者事後評価

熟練現職養護教諭の討論をモニターすることで、日常の養護実践への振りかえりと気づきがあったこと、また、継続的研修参加により、日々の実践場面において具体的に役立つという記述も認められた。

・熟練養護教諭による研修プログラムの評価

自作ケース教材の作成と研修当日までのケースメソッド教育講師との打ち合わせによって、養護実践に関する洞察や省察ができたこと、さらに、初任者の討論内容をモニターすることで、現職養護教諭の研修課題を見出すことができたこと、以上2点が事後インタビューより抽出された。

初任者にとっても熟練養護教諭にとって

も、養護実践力の向上に役立つ研修モデルとして評価を得た。

以上の成果については、学会発表を行った。

本研究の課題としては、特定のコミュニティを対象としたために質的なプログラム評価方法を実施したことがあげられる。今後の本研究の展開としては、プログラムの汎用性をさらに検証していくことがあげられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計 4 件)

林 照子 養護実践力をめざしたケースメソッド教育プログラムの開発
日本健康相談活動学会 第9回学術集会
2013年3月 北翔大学

竹鼻ゆかり・岡田加奈子・斉藤千景・鎌塚優子 ケースメソッド教育のケースから抽出された連携の要因
日本健康相談活動学会 第9回学術集会
2013年3月 北翔大学

林 照子・竹鼻ゆかり・岡田加奈子・鹿野裕美
養護教諭を対象としたケースメソッド教育の討論を促進する要素
日本健康相談活動学会 第7回学術集会2011年2月20日 金沢大学

Teruko HAYASHI How Could “Case Method” Trainers Be Fostered in Japanese Universities? - Suggestions to Novice Case Method Trainers-
第2回 東アジア教師教育研究国際大会
The 2nd East Asian International Conference on Teacher Education Research
2010年12月15日 香港教育学院
林 照子

[図書] (計 1 件)

林 照子 : 第5章 「ケース」 & ティーチング・ノート「Case 高等学校」: 岡田加奈子・竹鼻ゆかり (編著) 2011 教員のためのケースメソッド教育 pp.179-192.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

林 照子 (HAYASHI TERUKO)
園田学園女子大学・健康科学部・准教授
研究者番号: 30434921

(2) 研究分担者

岡田 加奈子 (OKADA KANAKO)
千葉大学・教育学部・教授
研究者番号: 10224007

竹鼻 ゆかり (TAKEHANA YUKARI)
東京学芸大学・教育学部・教授
研究者番号: 30296545

鹿野 裕美 (SHIKANO HIROMI)
宮城大学・看護学部・准教授
研究者番号: 40510631